校章・校歌

「校章・校歌」の由来

雫石町立御所小学校の校章・校歌は、御所地区小学校統合準備委員会・第１部会「校名及び伝統文化等検討部会」において、公募し選考して制定されました。

『校章』は、１０案の中から選定し、「大村小学校の柏の葉」、「南畑小学校の三つ葉」、「安庭小学校の白梅の花びら」、３校の校章の由来を引き継ぎ、在校生や卒業生、地域の方々に親しみをもってもらえるよう作られました。

『校歌』は、３つの小学校の校歌から残したいフレーズを公募し、９名の応募をもとに、東京アカデミック管弦楽団代表・オーボエ奏者で雫石町観光大使でもある七澤英貴氏が作詩を行いました。また、指揮者で著名な作曲家でもある平井秀明氏が作曲を行いました。

≪作詩者・作曲者の校歌への想い≫

岩手山に守られ、自然に囲まれて育つ児童の皆さんに、「地元への愛情を込めて歌っていただくように」との思いを込めて作詩・作曲いたしました。

３つの学校が統合するにあたり、長い伝統を受け継ぎながら、新たな歴史を拓き、刻み始めるスタート地点にいる児童の皆さんの元気な歌声と笑顔に先日触れて、明るい未来に向かって歩んでいかれることを確信いたしました。

最後の三部合唱箇所は、３校が一つに合わさり、手を携えて歩んでいただくことへの希望を込めております。ぜひ誇りを持って、歌い継いでいただければ嬉しく思います。

雫石町立御所小学校　校歌

七澤英貴　作詩
平井秀明　作曲

一
ゆかりゆかしい　御所の地に
北に仰ぐは　岩手山
湖水のほとり　学び舎で
大きな夢に　歩み寄り
歴史の雫　御所小学校
みんなやさしく　かしこく学ぼう

二
土のかおりも　ここちよく
走るわれらは　たくましく
ひかりのように　ほがらかな
うぐいすの声　谷渡り
歴史を拓く　御所小学校
みんな明るく　笑顔で歩もう

三
御所のみなもと　みなみ川
雪解けの水　春を呼ぶ
希望のあかり　かかげよう
とわにふるさと　輝いて
歴史を刻む　御所小学校
みんな元気に　未来に進もう

「校歌」の作詩者・作曲者の紹介

東京アカデミック管弦楽団代表・オーボエ奏者　七澤英貴 Nanasawa Hidetaka

東京都出身、番町小学校、麹町中学校、桐朋学園女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部在学中に東京シティフィルハーモニック管弦楽団に入団。後に、ドイツに於いて、ミュンヘン市立音楽大学、北西ドイツ・音楽アカデミーを経て、ティボーバルガオーケストラ、ドイチェバッハゾリステン、トゥリアー市立歌劇場管弦楽団オーボエ奏者を歴任後帰国、公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団オーボエ奏者。
秋田県鹿角郡小坂町、岩手県雫石町観光大使、日本オーボエ協会常任理事。

指揮者・作曲家　平井秀明　Hideaki Hirai

幼少よりチェロを父平井丈一朗に、ピアノと作曲を祖父平井康三郎に師事。米国ロチェスター大学政治学科卒業。平井氏は、これまでに東京フィル、新日本フィルなどをはじめとする国内主要オケや新国立劇場オペラ劇場などに度々客演し好評を博しているが、1997 年より、チェコ・ヴィルトゥオージ室内管弦楽団の首席指揮者（創立指揮者）に就任。現在は、同室内管の首席客演指揮者を務めている。2014 年 12 月 1 日付で、ニューヨーク祝祭管弦楽団の音楽監督に就任した。なお、平井氏は作曲家として、自作オペラ三部作（『かぐや姫』、『小町百年の恋』、『白狐』）などを発表、すでに内外 30 カ所以上で上演されるなど、幅広い活躍が注目を集めている。

開校式

入学式

１年生を迎える会

運動会校章旗披露

林間学校

北海道函館修学旅行

校歌の練習会